

お目を拝借

第15回 技能オリンピック開催

2016年10月18日
向井建設株式会社
人材開発部

10月16日(日)、東京職長会との共同主催による第15回技能オリンピックが、埼玉県三郷市のサンケイスポーツセンターで行われた。当日は晴天に恵まれ、午後はさらに気温が上がり応援するだけでも汗ばむほどの秋晴れとなった。今年は99名の競技参加者を含め、総勢352名の関係者が参加。家族連れも多く、子供たちの声援が飛び交った。競技開始前に行われた体操では、もはや恒例となった筑波大学大学院のインストラクター指導のもと、楽しみながらウォーミングアップを行い、お昼には株式会社大同機械様からトン汁を提供していただいた。競技種目は1級競技「真つか小屋組」、2級競技「片流れ小屋組」、仮囲い競技「フラットパネル組立」、コ口曳き競技、玉掛け競技の5種目で、選手はそれぞれの競技で技を競った。

1級 競技



優勝 高橋 健一 社員

けんいち

(東京本社・川嶋班)

1級競技で優勝したのは、向井建設・川嶋班の高橋健一社員(36歳・経験10年)。高橋社員は2012年に行われた第12回大会2級競技で優勝している。その後1級競技に参加してはいたものの優勝こそ逃していた。今回は3回目の出場ようやく掴んだ優勝だ。高橋社員は「うれしい。今回で最後にしようと思っていた。意地で優勝した」と興奮気味に話す顔には気迫がこもった。3度目の正直で、ベテランの貫禄を見せてくれた。

「競技で求められる精度はこの現場でも同じ。その点は十分現場で生かせる」と高橋社員。普段の現場では安全と仲間意識を大切にしているという。休憩の時も積極的にプライベートの話をして、仲間との理解を深めている。また、若手の育成にも熱心で、「まず自分がやって見せてから、やらせてみる。それからできていないところを指導する」という。今後、高橋社員の指導を受けた後輩の中から優勝者が出るのが楽しみだ。



1級競技で優勝した高橋社員

2級 競技



優勝 森子 裕悦 社員

もりこ ゆうえつ

(東北支店・村上班)

2級競技の優勝は、東北支店・村上班の森子裕悦社員(28歳)。優勝に対して、森子社員は「うれしい」と率直な気持ちを伝えてくれた。仕事が終わってから営業所の駐車場で、先輩の指導を受けながら練習を繰り返したという。「練習では1時間を切れず、当日まで組み方もうまくまとまっていなかった。心配していた」と森子社員。加えて緊張しやすい性格ということもあり、プレッシャーを感じていた。当日は岩手営業所の小野寺社員との何気ない会話がきっかけで、緊張がほぐれ、周りが見えるようになったという。「競技はそれほど疲れなかった。中にはもっとハードな現場があるし、練習より楽しかった」と余裕を覗かせた。

現場ではコミュニケーションを心がけている。穏やかだけれどもピリピリとした緊張感のある現場を目指したいと抱負を語ってくれた。「職長という立場だが、偉そうにしないこと、そして、相手を尊重するよう務めている」という。



2級競技で優勝した森子社員

技能五輪

目指せ! 金賞

技能五輪全国大会

布施 龍一 社員

ゆうひ

菅原 友飛 社員

この日の昼食時には技能五輪全国大会の課題説明と激励が行われた。今回出場するのは、直轄施工部に所属する布施龍一(20歳)・菅原友飛(20歳)両社員。大会は10月22日・23日と目前に迫っている。9月23日にはじまった練習は既に終盤を迎え、仕上げは順調のようだった。

布施社員は「精度の点で10ミリほど誤差があるので、残りの時間で修正していきたい。周りの選手は意識せず、自分の作業に集中したい。現場ではこんなにも動かないので疲れるが、ここへきて慣れた」と話してくれた。今大会の会場は山形で布施社員の出身地でもある。ご両親の応援も聞けるかもしれないなかで、故郷に錦を飾ってみたい。

一方の菅原社員は「体力的にはきついですが、精度は落ち着いてきて、いい感じに仕上がっている。きれいに早くを意識して取り組みたい。金賞を取らなければならぬ」とプレッシャーは特になかった。

「金を意識せずがんばる」。力強く語ってくれた。



技能五輪全国大会に出場する菅原社員(左)、布施社員(右)

指導にあたる

山 寛 社員から一言

指導にあたる山社員は、今回2名の指導に当たる。「2人は特徴が違うので、一方の指導に気を取られてしまいがちなので、そのあたりで気を遣った」という。

一方で「2人の良いところが影響し合い参考になれば」と話してくれた。山社員は布施社員について「開始直後の下回りで慎重に丁寧でできればその流れで精度を維持し、上位を狙える」。菅原社員には「クランプを投げ捨てるなど、やや粗い行動があるので、その辺を抑えれば期待通りの結果になる」と期待をにじませた。

山社員の指導は今回で3回目。「関係者の意見に自分なりの判断を加えられるようになったし、出場するライバルにも注意を払えるようになった」と指導者としての成長を伺わせた。一方で、山社員は「自分でも緊張が薄れてきているのを感じる。慣れたきたのが怖い」という。自らを戒めるように、課題の図面を何度も見返すその姿は、はじめて指導に当たり、不安を打ち消すように図面と向き合ったあの時と重なる。

ベトナム人

技能実習生 上位入賞

今年も9名のベトナム人技能実習生が競技に参加した。1級競技に4名、2級競技に3名、玉掛け競技に2名。ベトナム実習生は毎回上位入賞の常連だが、今回はゲン・ヴァン・ハイさんの5位に留まった。

ハイさん「暑かったのでもちよっと疲れたけれど、気持ちいい」と語った。来日して2年ほど経つが、日本の生活にも慣れて、仕事も「上野御徒町の現場は楽しい。星さんと一緒です」とはつらつと話してくれた。現場では「自分で考えて高いところ、危険なところは安全帯を必ず使う」と、安全への意識も板に付いている。



1級とび競技で5位のハイさん